

季節を詠む、
時流を詠む

四季の歌

美野里短歌クラブ

雨上がり風に乗りくる草の香が鼻先掠めかすかに匂う
 「幸せは自分の心次第です」ベニシアさんのメッセージ届く
 退院し一番先に気になるは友にもらいし皇帝グリア
 球児らは熱戦終えて土浦の駅に降り立つ日焼の顔で
 栗をむくこの堅き皮いずこより虫が入るや不思議に思う

小川短歌会

天高し柿熟るる季のひすがらを鋭き百舌の声ひびき交う
 シルバーカー押して散歩も楽しいね昨日あの道今日はこの道
 青春だ五十年ぶりのボーリング真剣になり二位の賞品
 切り戻し追肥いく度サルビアの赤さえええと晩夏のひかり
 恋人によりそうが如き白き蝶花の上下にたわむれている

玉里短歌会

父母の明治に残しし歌集読み一番鶏の鳴く声を聞く
 音もなく静かに花弁開きゆく朝顔の白に数多虫寄る
 盆おどり月夜の帰り影ふみを皆はしやせし夏の想い出
 坂道は我を気遣い歩をゆるめ時折り止まる愛犬のゆず
 社へと続く坂道走り根の頭となるも土手支えおり



野口初江	松田通喜	高田久子	正木敦子	齋藤かつみ	佐藤正	幡谷啓子	小川ヒロコ	根本智恵子	石田はる江	碓谷きえ	宇都宮和子	山口和代	菱沼友江	菱沼清子
------	------	------	------	-------	-----	------	-------	-------	-------	------	-------	------	------	------

みづうみ俳句会

山あいに赤く燃え立つななかもど
 秋高し幾山越えて八十路かな
 秋の寺天にとどけと鐘をつく
 読みきれぬ本を重ねて炬燵入り
 祖母の家足浮かしけり炭炬燵

みのり俳句会

柿たわわ暮色に染まる麓村
 月軒にかかりて欠けるところなく
 娘と参る箱根の旅の秋刀魚膳
 大木を登り切ったる蔦紅葉
 そばの花やさしき白でありにけり

櫂の会

蛇穴に入り損ねている日和
 かくれんば花野の海に溺れそう
 秋夕焼風の奏でる昂のうた
 濃紺菊ふんだんに活け誕生日
 冬銀河弾かざる琴の音色かな

くるみ俳句会

寒き朝心温もる紅茶かな
 落葉径俳句ポストのある古刹
 季節はや瞬時に変り冬仕度
 初もみじ川面に光る浄蓮寺
 七十路を祝うてくれる菊日和

たまり俳句会

会釈せるも思い出せぬや秋深し
 人の世は一期一会と望の月
 長き夜や葉は朱き会津塗
 定例会男やもめの渋皮煮
 面会の叶わぬ夫よ夜長し

小美玉川柳会

鏡には笑顔をつくる古女房
 わが読書睡眠薬より効きが良い
 挨拶にひと言添えて弾む朝
 秋の夜半愛読書手にマイライフ
 好きですと俺の着メロ舞い上がる

梶原山平	下重悟史	信田正男	大盛食堂	小関玉知子	関も千恵子	れ石康子	大藤富子	斉藤富子	信田菊女	小原エミ	大曾根昭宣	安彦昭子	松崎淑子	木村小夜子	村田妙久	矢口富久	網代奈津江	井坂あさ	白根澤清香	島田清心	佐藤清子	友水清江	塚田文江	長島美奈子	長島さか江	長島久美子	三村れい子
------	------	------	------	-------	-------	------	------	------	------	------	-------	------	------	-------	------	------	-------	------	-------	------	------	------	------	-------	-------	-------	-------